

【様式2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立有田工業高等学校【全日制】

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日

令和5年2月14日(火) 第5回学校運営協議会

(2) 資料(評価の参考とした資料)

- ・学校運営協議会資料(第1回～第5回)
各校務分掌及び各学科の取組資料、
SAGA コラボレーション・スクール事業に関する資料等
- ・学校評価アンケート(7月・12月実施)の生徒・保護者・教職員の結果
- ・勉脩(学校だより)およびARIKO コミュニティ・スクール通信 等

(3) 評価者

学校運営協議会委員(13名)

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・各項目の取組目標も妥当であり、それぞれの担当でよく取り組まれている。
- ・SAGA コラボレーション・スクール重点校として、各学科で地域貢献活動にもよく取り組まれており、特別選抜入試での倍率も高かった。地域みらい留学での受検者も出ていて、全国募集の推進や志願者増加に向けてよく努力されていると思う。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・情報発信についていろいろな方法で積極的に行っている。学校の魅力発信の強化と広報活動の充実について、Aという自己評価は適切である。

③改善方策の適切さ

- ・教職員の働き方改革の項目で、Cという自己評価で、部活動による超過もあると思うが、先生方がゆとりを持つことが生徒のよりよい教育につながるのではないかと思う。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・基礎学力の向上に関するアンケートで、子供の家庭学習時間についての質問は、保護者も仕事をしていると子供の家庭学習時間は確認できないので、答えるのが難しい。ただ単に学習時間を見ていいのか、効率性も考えないといけないと思うので、評価は難しいと感じた。

- ・春夏連続で甲子園に行ったことも学校の魅力になり、誇らしいと思う。
- ・資格取得やコンテスト、コンクール参加などの推進とそのため補習体制の充実について、生徒・保護者アンケートでは、ともに満足度が高いので、Aという自己評価は妥当である。
- ・アンケート項目が毎年異なるのかもしれないが、同じであれば、学校評価アンケートで7月と12月の比較だけではなく、前年度との比較もできたらよいと思う。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・第三種の電気主任技術者にも合格したということで、素晴らしいと思った。ジュニアマイスター認定者も目標以上の成果を出しており、Aという評価は妥当である。
- ・学校運営協議会で、地元の中学校との連携で有工の力を借りたいという意見を出したところ、中学校でデザイン科の展示をしてもらったり、美術部にデザイン科の先生に来てもらったりした。意見を述べても、検討しませんでした。多いが、形にしてもらえたことは非常に有難かった。SAGA コラボレーション・スクール重点校として、多くの地域連携活動をしていて、Aという評価は妥当である。
- ・年内に就職内定100%ということで、進路実現に向けた取組について、評価できる。県内就職、特に窯業関係に生徒の関心が向いてくれると有り難い。

③改善方策の適切さ

- ・防寒着について制服の上からの着用を認めていない学校もあるようだが、最近のニュースでもあるように、瞬時に対応していくことも必要であると思う。アルバイトの件についても同様である。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・他校とは違って、全日制・定時制で有工祭（文化祭）を一緒にしたり、卒業制作展は全日制・定時制と聴講生も一緒に行ったりしているところがよい。また、デザイン科やセラミック科では、先生方も交流しているところも魅力の1つだと思う。
- ・卒業制作展を見に行ったが素晴らしかった。どの作品も研究テーマも3年間の成果に相応しいものであった。ぜひ多くの人に見に行ってもらいたいと思った。いくつかの作品を有田駅に常設して置いてもらうことができればいいのにと考えた。
- ・各学科で様々な地域連携活動を数多くされていて本当によくやっているということが伝わってくる。一方で、これらの取組のなかで、生徒達からこれをやろうといった取組がどれだけあるのか、どんなことをしたいか、生徒に考えさせたら、もっとおもしろいアイデアも多分出ると思うので、そういったことを増やしていくと、主体性も身につくのではないかと。
- ・地域みらい留学制度を利用した生徒が入学してくると思うので、学校・町・県のそれぞれが支援体制をしっかりと整えていく必要がある。